

-初めに-

多くの皆様より温かいご支援を賜り、2025年7月より米国にて内科臨床研修を開始する貴重な機会を頂戴いたしました。皆様のご支援なくしては、このような機会を得ることは決して叶わなかったものと、深く感じております。またご指導を賜りました湘南藤沢徳洲会病院の北川泉先生、リウマチ・膠原病専門研修において多大なるご助言を頂きました帝京大学ちば総合医療センターの萩野昇先生、そしてこれまでご指導・ご助力を賜りました諸先輩方に、心より深く御礼申し上げます。

このたび、米国内科臨床研修の開始にあたり、本エッセイを執筆させていただく貴重な機会を賜りました。執筆に際し、「留学に関する話題ではなく、別のテーマを選ぶように」とのお言葉を頂戴しておりますため、本稿ではその内容には触れない所存でございます。

海外での臨床研修の機会を模索し他国の方々と交流を重ねる中で、日本の歴史的・文化的な特徴について、改めて理解を深める貴重な機会を得ることができました。

本稿では、その過程で再認識するに至ったふるさと出雲の魅力、倫理観や道徳観の源流となる儒教や武士道の思想、そして米国での臨床研修を志すに至った経緯を中心に、拙筆ながら綴らせていただきました。

つたない文章ではございますが、最後までお目通しいただけますと幸甚に存じます。

目次

1. 略歴・出雲の地について
2. 日本に根付く倫理観や道德観の源流となる儒教や武士道の思想
3. 米国臨床研修を志すに至った経緯

1. 略歴・出雲の地について

雫辰徳と申します。島根大学医学部医学科を卒業後、内科研修並びにリウマチ・膠原病専門研修を修了し、2024年4月からは沖縄米国海軍病院に勤務しておりました。

島根県の出身で豊かな自然に恵まれた場所でございます。幼少期より剣道に親しみ、現在も細々ながら稽古を続けております。

自宅から車で20分ほどの距離には出雲大社があり、決して大都市ではございませんが、日本海に面した風光明媚な地域です。

また、日本で7番目に大きい淡水湖の宍道湖があり、地域ならではの珍味を堪能することができます。

そのほとりに、日本三大美人の湯としても名高い玉造温泉があり、山陰地方は日色白の方が多く県としても有名でございます。

また、島根県出身の著名人としては、竹下登元内閣総理大臣のご孫息である芸能人のDAIGO氏、お笑いコンビ「かまいたち」の山内健司氏、2024年度現役を引退された和田毅投手が挙げられます。さらに、大正時代まで遡りますと、文学界に多大な功績を残された森鷗外先生もおられます。



出雲大社は、歴史的背景と神話的ロマンに彩られた、由緒ある神社でございます。その神話は、現代において発掘されている石器や青銅器などの考古学的成果により一定の歴史的裏付けがなされつつあると、考えられております。

同社は、縁結びの神として広く信仰を集める大国主命（おおくにぬしのみこと）を御祭神としてお祀りしており、日本神話の最古の物語とも深く関わっております。『古事記』や『日本書紀』に記されている国譲り神話においては、大国主命が治められていた出雲の国を、天照大神（あまてらすおおみかみ）を中心とする天津神（あまつかみ）へとお譲りになる場面が描かれております。このとき、大国主命は、ご自身が鎮まるための壮麗な御殿を建立することを条件として、国を譲られたと伝えられております。こうして建立された神殿こそが、現在の出雲大社の起源であるとされております。この国譲りの神話は、出雲地方に根付いていた独自の政治的・文化的勢力が、時を経て大和政権に統合されていった歴史的過程を象徴するものとして、捉えられることもございます。

※なお、以上の解釈につきましては諸説あるものと存じますため、あくまで一個人の見解としてお受け止めいただけましたら幸甚に存じます。

2. 倫理観や道德観の源流となる儒教や武士道の思想

日本における倫理観や道德観は、長い歴史の中でさまざまな思想や宗教の影響を受けながら形成されてまいりました。その根幹を成すものとして、儒教・仏教・神道・武士道が挙げられます。

行動倫理においては、孔子および儒教の教えに基づく「孝（親への忠誠）」「忠（主君への忠義）」「礼（人としての作法）」「仁（他者への思いやり）」が重視され、現代においても「善いこと」として広く認識されております。また、孔子の五徳として知られる教えも、現代社会において「善いこと」として広く認識されているものと思われます。江戸時代には、朱子学（儒教の一派）が武士の統治思想として採用され、社会全体に浸透しました。この影響により、日本では「年長者を敬う」「目上の人に礼を尽くす」「和を尊ぶ」といった道德観が広く根付いたとされています。

また、仏教は6世紀に伝来し、慈悲の精神や無常観を通じて、精神形成に大きな影響を与えました。仏教では、「この世のすべては変化する」という無常の思想、また禅の概念が説かれており、この考え方は、人生観や死生観に深く根付いております。また、他者への思いやりや寛容の精神を重視する価値観は、現在の社会における助け合いや調和を重んじる文化へとつながっております。

神道は、儒教が伝来した際、特に祖先崇拜の面で神道の信仰と自然に融合しました。神道における祖先神への崇敬は、儒教の孝（親孝行）の思想と一致し、家族を基盤とした社会構造を強化しました。

武士道は、封建制度のもとで発展し、鎌倉時代から江戸時代にかけて確立された武士の精神的支柱であり、誠実・名誉・責任感を重んじる価値観を育み、江戸時代以降、武士道の精神は人々の道徳観にも影響を与え、価値観の一部として定着しました。その本質は「正義を貫き、嘘をつかず、誠実に生きること」を重視する思想でありました。この価値観は、現代においても「約束を守る」「責任を果たす」といった行動規範として受け継がれていると感じられます。武士道もまた、神道の影響を強く受けています。神道が重視する「清浄」や「誠実さ」は、重要視され、正直さや約束を守る精神につながりました。神道は文化の精神的・文化的基盤として機能し、儒教や武士道の思想を独自の形に発展させました。

日本の精神性を西洋に紹介した書物として、新渡戸稲造著の『武士道 (Bushido: The Soul of Japan) 』がございます。本書は 1899 年に初版が出版されて以来、日本人の行動理念や倫理観を説明する書籍として知られております。この本の第一章は

「BUSHIDO AS AN ETHICAL SYSTEM (倫理体系としての武士道)」と題され、その冒頭の一文には「Chivalry is a flower no less indigenous to the soil of Japan than its emblem,,,」と記されています。著者は、武士道が西洋の騎士道 (Chivalry) と類似している点を指摘し、日本文化が持つ倫理観を欧米に分かりやすく紹介しました。この一文からは、著者は武士道を独自の文化でありながら Chivalry のように世界に通じる普遍的な価値を持つものとして捉えていたことが伺えます。

現代においてはこういった思想を意識する機会はいくつもないものの、行動・倫理規範の根幹に深く根付いていると考えられ、「礼儀正しさ」「他者への気遣い」「公共の秩序を守る意識」などの形で表れていると思われます。

※解釈につきましては、諸説あるかと存じますので、あくまで一素人の考えとして軽く受け止めていただけますと幸甚に存じます

3. 米国臨床研修を志すに至った経緯

最後に、私が米国での臨床研修を志すに至った経緯について簡潔に述べさせていただきます。医学部卒業後、日々の診療ではベッドサイドやクリニックにおいて患者様と向き合い、適切な治療を提供するために学びを深めることに努めてまいりました。そうした経験を積み重ねるなかで、「臨床医学ほど奥深い分野はない」と実感するようになりました。先人や諸先輩方が臨床の現場で培われた鋭い洞察力に基づく貴重な知見に触れるたびに、強く刺激を受け、臨床医学を学び、多くの患者様に貢献したいという思いを強めてまいりました。

一方で内科およびリウマチ・膠原病の分野で研鑽を重ねるなかで、日本は主にアジア人を対象とした、比較的均質な集団を診療する環境であることを強く意識するようになりました。この気づきが、私が海外での臨床に関心を持つきっかけとなりました。リウマチ・膠原病の研修においてご指導を賜りました萩野昇先生より、日本と米国、さらには欧州における治療方針の違いや、疾患の疫学的な差異について熱心にご指導をいただいたことが、私の関心をさらに深め、海外での臨床研修を志す決意へとつながりました。海外での臨床を志す発端となったのは、こうした臨床への関心と学びへの意欲でございました。

最後に

拙い文章にもかかわらず、ここまでお付き合いいただきましたこと、心より御礼申し上げます。私なりの考えを述べさせていただく中で、至らぬ点や誤り、不正確な記述が含まれているかもしれません。一個人の拙論として寛大にお受け止めいただければ幸いに存じます。